

令和2年度 シラバス

愛媛県立津島高等学校

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2	学年	2年	類型	カレッジコース
教科書	第一学習社 高等学校 改訂 地学基礎			副教材	第一学習社 改訂 ネオバルノート 地学基礎				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点					学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				①	②	③	④		
1 学期	4	第1章 宇宙における地球	第1節 宇宙の構成 1 宇宙の始まり	◎	○				1 学期は宇宙のちりから地球が誕生するまでの過程を学び、他の太陽系の天体との共通点、相違点を考えます。また地球の内部の構造や成分、しくみについて学びます。 2 学期は化石を通して、地球環境の変化と生物の変遷との関係や、大気や海洋のしくみや動きについて学び、太陽のエネルギーと大気や海洋の動きとの関係、天気について学習します。 3 学期は地球の自転や公転、他の惑星の動きについて学びます。最後に自然災害への備えや災害発生時の行動について考えます。
			2 宇宙の広がりと銀河の分布		○	◎			
	5		第2節 太陽 1 太陽の構造 2 太陽の組成		○		◎		
			第3節 太陽系の中の宇宙 3 太陽の誕生と将来 1 太陽系の構造	○	◎				
			2 太陽系の構造 3 地球型惑星①		○	◎			
			4 地球型惑星②	◎			○		
	6	第2章 活動する地球	第1節 地球の姿 5 木星型惑星 6 惑星・衛星以外の天体		◎	○			
			7 生命の惑星・地球 1 地球の形と大きさの測定	○		◎			
			2 地球の形と大きさ 3 地球の内部構造	○	◎				
			4 地球の構成物質 5 プレーートの運動	◎			○		
	7		期末考査	○	○	○	◎		学習の目標 高校地学の基本的な内容（地球、地球の活動史、大気・海洋、宇宙）について、知識・理解・技能の定着を目指す。また、さまざまな演習を通して、課題に対する問題解決能力を高める
			6 プレーートの収束と造山運動	◎			○		
				○	◎				
2 学期	8								① 関心・意欲・態度 身の回りにある自然の事物に対して興味を持ち観察し、意欲的に授業に参加しているか。
	9		第2節 火山活動と地震 1 火山の分布 2 火山の地形	○		◎			評価の観点 ② 思考・判断・表現 図表・観察・実験などの結果から、地学的な現象がどのようにして起こったか、考えられる答えを見出しているか。
			3 火山の噴火と火成岩 4 火成岩の種類		◎		○		
			5 地震の発生するしくみ	○		◎			
			6 地震の動き	◎		○			
	10		7 地震の発生する地域 中間考査	○	○	○	◎		③ 観察・実験の技能 観察・実験に積極的に取り組みレポートを分かりやすくまとめているか。
		第3章 移り変わる地球	第1節 地層や岩石と地質構造 1 地層の形成 2 地層と堆積構造		○		◎		
			3 堆積岩 4 地殻の変動 5 変成岩	◎		○			
	11		第2節 地球環境と生物界の変遷 1 化石 2 地層の対比と同定	○		◎			④ 知識・理解 学習した内容を理解し、知識を身に付けているか。
			3 地質時代とその区分 4 先カンブリア時代①	◎			○		
			5 先カンブリア時代② 6 古生代①		○		◎		
			期末考査	○	○	○	◎		
	12		7 古生代② 8 中生代		◎		○		④ 知識・理解 学習した内容を理解し、知識を身に付けているか。
			9 新生代① 10 新生代②	○	◎				
3 学期	1	第4章 大気と海洋	第1節 地球の熱収支 1 大気の特徴 2 大気圏の特徴	◎			○		④ 知識・理解 学習した内容を理解し、知識を身に付けているか。
			3 対流圏における水の変化 4 太陽放射と地球放射		◎				
			第2節 大気と海洋の運動 5 地球のエネルギー平衡 1 緯度によるエネルギー収支		◎		○		
			2 風 3 大気の大循環		○		◎		
	2		4 海洋の構造 5 海洋の大循環	○		◎			備考
		第5章 地球の環境	第1節 地球環境の科学 1 地球温暖化① 2 地球温暖化② 3 オゾン層の破壊 4 エルニーニョ現象とラニーニャ現象	○		◎			
			学年末考査	○	○	○	◎		
	3		第2節 日本の自然環境 1 自然の恩恵 2 季節の変化 3 気象災害と防災		○	◎			備考
			4 地震災害 5 地震による被害の軽減	◎			○		
			6 火山災害と防災		○		◎		

※評価の観点 ①:関心・意欲・態度 ②:思考・判断・表現 ③:観察・実験の技能 ④:知識・理解

◆学習方法のポイント

【概要】

- 地球深部や宇宙など取り扱う範囲が大きいので、何より想像力が大切になります。読書を通して想像力を豊かにしておくことが必要です。
- 問題を解けば解くほど、自然界のしくみがはっきりと見えてきて興味が深まります。家庭での学習習慣を身に付けましょう。
- 地学は物理、化学、生物の基本的な知識を必要とする総合的な学問です。中学校で学んだ内容をきちんとおさえておくことが大切です。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
- 1時間の授業の流れは、次のようになります。
 - ① 前回の授業の内容を小テストなどで確認します。
 - ② 課題に取り組みます。
 - ③ 課題の解法を確認して、要点を整理します。
- 覚えた語句を用いて問題を解くことが基本です。
→教科書・ノートで確認しやすくしておくことが大切です。
- 問題を多くこなし、粘り強く取り組むことが、理解することにつながります。

【家庭学習】

- わからないことは授業時間内に解決して、理解しましょう。
- 前日に少しでも前回の復習をしておく、授業内容を理解する度合いが違ってきます。

【定期考査】

- 語句の意味、表記などを正確に覚えることが基本になります。
- 初めて見る問題でも、知識の応用で全て解けます。あきらめず粘り強く取り組む姿勢をつくりましょう。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③観察・実験の技能 ④知識・理解の4つの観点から評価します。ただし、定期考査を重視します。		
評価の基準	1 学 期	単元テスト、期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。)出席状況および学習意欲(主に①の観点から評価します。)ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。)課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)	
	2 学 期	中間考査、期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。)出席状況および学習意欲(主に①の観点から評価します。)ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。)課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)	
	3 学 期	学年末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。)出席状況および学習意欲(主に①の観点から評価します。)ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。)課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)	
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均	